

# CIM への取り組みについて

復建調査設計(株) 事業推進本部 CIM 推進室室長 亀田 雄二

## 1. はじめに

私は、CIM を「ICT を駆使して、調査から維持管理まで情報を一元管理すること」、i-Con を「ICT を利用して現場が楽になる。当面は土工」と理解している。弊社の CIM への取り組みを紹介する。

## 2. CIM 活用事例

- ① ミス防止による業務全体の効率化
- ② 図面作成、数量計算等の単純作業削減による効率化
- ③ アカウンタビリティ性の向上による業務全体の効率化
- ④ 4次元施工計画による設計段階における施工効率化の検討と確認
- ⑤ 施工、維持管理へのデータ連携

## 3. 動向(CIM 制度検討会・技術検討会)

- ① CIM 導入ガイドライン骨子：目次
- ② CIM 導入ガイドライン素案(一部のみ)
- ③ CIM 導入に向けた要領・基準類等検討
- ④ 工事契約図書としての CIM の取扱い検討
- ⑤ 効果的な CIM 発注方式の検討
- ⑥ CIM 推進・普及体制(H28～)：CIM 導入推進委員会>3つのワーキング
- ⑦ 2016 年度 CIM 試行実施方針

## 4. 課題と今後の対応

CIM に関する弊社の課題と今後の対応を表-1 に整理する。新入社員研修について表-2 に整理する。内容はソフトハンズオン研修と 3D 化等タスクとその発表である。

表-2 新入社員 CIM 集中研修

年度	人数	期間
2014	17 人	5/7-6/27
2015	25 人	5/7-6/19
2016 予定	20 人	5/9-6/15

## 5. おわりに

2次元 CAD も使用していなかった私が、50 の坂を越えて取り組んでいる CIM。IT 技術頼りではあるが、結構面白い。今の若手技術者は、機械音痴でなければ先輩達から基礎的な技術を継承することで、CIM のメリットを余すところなく享受するだろう。さらに「生産性の向上」をキーワードに最低限のルールを守りながらも自由な発想により効率的な手法へ昇華するのは必至である。誰がサービスを提供し、誰が受益者であるかが理解され、そのプロセスが明確になれば、普及スピードはもっと加速される。夢は国際的ニーズに応えられるサービスを提供する日本の技術者が世界を舞台に大活躍する姿を見ることである。

表-1 CIM に関する弊社の課題と今後の対応

	現状	問題点	課題	今後の対応
業務	残業	単純作業	作図の効率化	[内製]CIM 担当 [外製]研修
	点群等データ	サーフェスの精度	取扱適性精度検討	調査部門との連携、標準化
社内研修	集中研修	忘れてしまう	恒常的使用	フォローアップ研修
	1日研修	活用できない	活用事例の周知	活用講習会、活用 WS